

## 医療の現場で、日本とブラジルの橋渡し……

### 渡辺エミリアさん



来日、13年目になる渡辺エミリアさん、マルセロさん親子。

現在、エミリアさんは、木沢記念病院で、ポルトガル語の通訳者として、医師や看護師さんたちと治療に訪れるブラジル人とのパイプ役として、病院内を飛び回っています。

◇日本に、来られたのはいつですか？

日本にきて、今年で13年目になります。

息子（マルセロさん）が13歳の時、日本に来ました。ブラジルの学年では、中学校の2学年にあたる学年でしたが、日本では中学1年生で入学しました。しかし、実際入学して、言葉の違いで大変だったので、特例として小学6年生に入学させてもらいました。

今は、在住外国人の方が増えてきたので、年齢どおりの学年に入られるようです。

◇日本に来るまでに、日本語を勉強してたんですか？

私やおばあさんが、少しは話すことができたのでなるべく家にいるときは日本語を教えるようにしていました。ブラジルにいるときも仕事をしていたので、あまり教えることはできませんでした。

◇なぜ、日本で働きたかったのですか？

すか？

当時のブラジルは不景気で、住宅ローンが、年に1200%ぐらい上がり、インフレ率も月に30%は、上がっていました。

物価はどんどん上がるのに、給与は政府からの制約で上昇率の80%ぐらいに抑えられてしまっていて、生活が苦しくなっていました。

またブラジルには、義務教育がないので、教育費も同じようにどんどん上がっていました。

◇それでも、やはり教育は受けさせたいですね。

そうですね。一応、ブラジルにもパブリック（国立）の学校があるのですが、ミドルクラスの学年向けの学校しかないの、それ以外の学年は、私立の学校にいかなければなりません。

ブラジルは治安が悪いので、ほとんどの家庭で送迎をつけます。その送迎の人の給料も高くなり、ひどい時だと学費と並ぶときもありました。

また、ブラジルの学校は午前中だけなので、午後からクラブや習い事を受けさせるために月謝を払い、またそのために送迎をつけないければならないので、またお金が



△病院では、1日平均20人前後の通訳をしています。

かかりました。

◇どのような苦勞をされましたか。

私がかきたころはまだ外国人就労者が少なかったの、言葉や文化の違いを理解してもらえず、苦勞しました。言葉で伝えようとしてもわかってもらえず、つらい思いをしたこともありました。

◇日本に来て印象深いことは？

血縁関係もない地域の人たちが、本当に良くしてくださったことです。

今の私たちがいるのは、そうして温かくしてくださった人たちがいたからこそです。

だから、私も日本とブラジルのお役に立てればと思います。